夢をかなえる4C

2020年 4月21日
1年生 学年通信
第6号

愛された理由

娘たちも好きだった、志村けんさんの演じる殿様キャラ

3月30日の朝、突然流れた訃報に日本中が言葉を失いました。新型コロナウイルスに感染し、都内で治療を受けていた志村けんさんが、肺炎のため亡くなったのです。志村けんさんは、先生にとっては昔から大好きなコメディアンで、小学生の頃は彼が出演する番組を毎週楽しみにしていました。時代は流れ、今では娘たちも志村さんの番組が大好きです。ただ、もしかしたら下の娘などは志村さんをコメディアンでなく、動物園の園長さんだと思っていたかもしれません。娘たちと毎週見ていた優しい笑顔がもう見られなくなると思うと、とても悲しい気持ちになります。志村けんさんのご冥福を、心よりお祈りいたします。

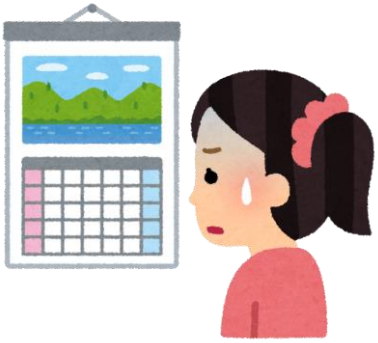
そんな、世代を超えて愛された志村けんさん。彼が愛された理由はどこにあったのか、先生なりに調べてみました。そして調べる中で考えたことがあります。

志村さんが愛された理由。その１つとして、コメディアンとしてのコントや芸の面白さは、もちろんあったでしょう。厳格な父のもとで育った少年期、テレビでみたお笑い番組や漫才が、彼がお笑いの世界を志すきっかけになったそうです。高校卒業後は付き人として苦労をした時期もあったようですが、苦しい環境にも諦めずに自分の“お笑い道”を貫いてきました。俳優としての出演オファーは断りまっすぐに笑いを追究してきた結果、数々の、人々から好まれるキャラクターやギャグが生み出されてきたのだと思います。

志村さんが愛された理由。もう１つは追悼の言葉の中に度々登場する、彼の思いやりの心です。志村さんは、共演する人たちをとても大切にされていたようです。志村さんが人の悪口を言っていた、という話はまったく聞きませんし、共演者の多くは自分の方が年下であっても丁寧な言葉づかいで接してくださったということを言っていました。器の大きさ、気前の良さは伝説になるほど…　テレビで見る彼の人柄は、まさにその情報と一致します。それも、彼が愛された、というか愛され続けた理由なのでしょう。

志村さんが愛された理由のうち、前者の“面白さ”については、私たちにはなかなか真似できないことです。特に、誰も傷つけない笑いというのは難しいです（傷つけたりバカにしたりする笑いが通用するのは、テレビの中だけですよ！）。しかし、後者の“思いやり”については、誰でも真似できることでないかと思います。そして、誰もが真似すべきことでないかと思います。

誰に対しても優しい気持ちをもって接すること…
相手を尊重し、丁寧な言葉で語りかけること…


長く続く休校で、再開が不安という人はいませんか？

学校に通う全員がそういう思いやりの気持ちを大切にすることができたら、今よりももっともっと安心できる学校になると思いませんか？　みなさんは、まだ入学式の１日を学校で過ごしただけで、別の小学校から来たクラスメイトとはあまり話も出来ていないと思います。これからうまく関わっていけるかと、心配している人もいると思います。誰もが社交的で積極的なわけではありませんし、この空いてしまった時間にさらに不安を募らせている人もいるでしょう。そんなときだからこそ、お互いに相手を尊重しようとする思いやりの心が大切です。違いを受け入れる大きな心が必要です。志村さんについて調べれば調べるほど、そういう想いが強くなりました。志村さんは、最期まで大切なことを教えてくれたような気がします。

志村さんが少年期にテレビで流れるお笑い番組を楽しみにしていたように、先生や先生の家族も志村さんが出演されている番組を楽しみにしていました。笑いの絶えない素敵な時間をたくさん過ごすことができました。志村さん、本当にありがとうございました。